

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102988		
法人名	有限会社アヴェニール		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	岐阜県岐阜市河渡5丁目60番地		
自己評価作成日	令和6年1月7日	評価結果市町村受理日	令和6年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102988-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

24時間体制で看護職員を配置し、訪問看護ステーションとの連携もある。中心静脈栄養・胃瘻・インスリン注射等医療と切り離すことの出来ない利用者様の受け入れをし、ご家族の意向・ご本人の希望等に寄り添い当ホームで出来る限りのケアをする。また看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「和気藹々」は、利用者、職員共に和気藹々と笑顔で過ごせることを目指している。リビングでは、唱歌の本を見ながら利用者が歌い出すと自然に合唱がはじまり、居室ではちぎり絵や絵手紙に没頭する利用者もいる。利用者が楽しみをもって過ごせる支援と、支援する職員が互いに協力して利用者に向き合い、研鑽する体制ができています。
24時間365日看護師が常駐することで、利用者、家族、介護職員の安心につながり、ホームにとって大きな強みとなっている。日常的な健康管理や救急時の迅速的確な対応が可能で、医療ニーズが高まっても、それまでの関係を基に本人、家族の思いに寄り添った看取り支援がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解し、地域住民の方との交流の場に出掛ける等、この地で暮らし続けることを支援できるよう努めているが今年も昨年から引き続き地域住民との交流は出来ていない	「和気藹々」を理念とし、職員間で共有され、浸透している。毎月のカンファレンスには全職員が出席し、日々の支援での不安や意見を共有して、学び支え合う関係性が構築されている。利用者も職員も、「笑顔」で過ごせることを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣の社福法人の行事に参加し交流を深めたり、散歩や買い物に出掛ける利用者様もいたため地域住民と挨拶を交わしたり、自治会行事への参加もしていたが、今年も昨年から引き続き出来なかった。	清掃活動や散歩、買い物などの日常の外出時や、ホームへの差し入れなど、日頃から地域住民との交流機会がある。毎月の民生委員の訪問時や、自治会の集会への参加時に、ホームと地域との情報交換を行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行後は運営推進会議を再開している。以前のように様々な取り組みについて報告し意見をいただき反映させている。	コロナ感染症5類移行後は、対面開催を再開している。地域包括支援センターや市の行政担当者、地域住民、家族の参加があり、意見交換を行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前から相談事がある時には直接出向き市町村担当者と顔を合わせ相談にも乗ってもらっている。現在は電話やメールでのやり取りが多くなった。	メールや電話、郵送により情報収集し、連携を取っている。コロナ禍以前は、訪問して関係構築に努めていた。直接対面する機会が減少した分、電話での声を介したやり取りによる「ライブ感」を意識し、関係構築に努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で日々ケアに取り組んでいる。しかし必要な場合は家族と話し合い適切な手続きを経て身体拘束を行う。その後は定期的にアセスメントを行い解除に向けた話し合いをしている。	身体拘束はしない方針を丁寧に説明している。必要がなければ行わないが、家族の不安解消や危険行為に対しては、状況に応じて行政と相談している。ホーム内で、話し合いと解除に向けた試みを繰り返しながら、定められた手順に従った対応をとっている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に「高齢者虐待防止法」の勉強会を開催し職員全員が理解を深め、注意しあえるよう努めている。	毎月の会議の時に身体拘束、虐待について学ぶ機会を持っている。理解促進のため、具体的な事例で検討を行うが、職員それぞれの受け止め方が異なることを把握し、対応の仕方を考えて共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部より講師を招き「権利擁護・成年後見制度」の勉強会を開催し職員全員が参加して理解し活用できるようにしていたが今年も開催できなかった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分に説明し理解していた。また法改正等で変更があった場合も都度説明し理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし良い信頼関係が築けるよう努めている。意見・要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。	家族の面会時や電話連絡の際には、ユニット責任者や管理者が必ず様子を伝え、意向を確認している。話しやすい雰囲気づくりのため、コミュニケーションを重視し、できること、できないことを曖昧にせず、説明することに努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回開催されるカンファレンスには必ず代表者・管理者が参加し職員からの意見を聞く機会を設けている。しかし把握しきれない可能性もあるため、年に一度の個人面談で収集できるよう努めている。	定期的な会議や日常業務の中で、職員から意見や提案などを聞く機会がある。勤務歴の長い職員が多く、良好な関係性が構築されている。意見は検討し、運営に反映している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日ホームに居て個々の職員の勤務状況を把握している。	職員の希望や事情に合わせた勤務形態やシフト調整を行っており、非常勤から常勤職員への登用事例もある。年次有給休暇の取得促進や、福利厚生制度の充実を検討している。開設当初からの職員も多く、和気藹々として働きやすい職場との評価がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し希望の研修を受けられるよう努めているが、外部の研修への参加は実現出来ていない。そのためホーム内で勉強会を開催しケアの向上に努めている。	キャリアパス制度によるスキルアップへの評価がある。職員の持つ様々な経験を活かし、日々の業務の中で管理者が直接指導したり、カンファレンスでの事例検討を通し、全体的なスキルの底上げを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から代表者は他のホームの管理者等と交流を深めてきたが、コロナ期間も電話やメールでの交流が行われていた。情報のやり取りなど現在も良い関係が続いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側との意識を持たずお互いが共同しながら和やかで楽しく生活が出来るよう心掛けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情や行動からも意思を読み取れるよう努め、より理解を深める為に家族からも情報を得るよう努めている。	直接聞くだけではなく、日常場面で見られるきっかけをつかんで推察し、考えを汲み取り、そして検討して試みる。その繰り返しから、利用者の思いや考え方の理解を深めている。送りノートや記録を活用し共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様主体の暮らしに反映したケアプランを立てている。プランの見直しは期間や身体状況に応じて作成している。また、毎月のカンファレンスで意見交換をしプランに反映出来る様に努めている。	利用者の担当職員を決め、計画作成担当者とともにアセスメント、モニタリング、介護計画原案を作成し、カンファレンスで検討している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には一日の様子を記入し特記事項はその日のうちにスタッフに伝わるよう連絡ノートに記入し、必ず目を通し情報を共有している	個別の介護記録と送りノートを活用し、情報共有を図っている。業務で気づいたことは送りノートや記録に記載し、細やかな情報伝達が行える工夫がある。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。	看護師が4名配置され、24時間点滴やインシュリン注射などの高い医療ケアへの対応が可能である。本人や家族の意向に応じ、どのようにしたら叶えられるか前向きに検討する姿勢で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様たちが安心して暮らし続けられるよう自治会・民生委員などと情報交換してきたが、今年も出来なかった。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前よりのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。通院が不可能になった場合でも近医に訪問診療をいただける。	24時間の救急対応が可能な医療機関が、かかりつけ医として訪問診療を行っている。専門の診療科については、必ず家族と一緒にホーム看護師が受診し、状況の把握に努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法など情報を提供している。またホーム職員が定期的に見舞うようにし家族ともに連絡を取り合っている。協力医療機関での入院が多いため、病院職員との良い関係は出来ている。	入院時には医療機関への情報提供とともに家族と密に連絡を取り、状況の把握に努めている。病院から家族へ、病状等の説明があるときは家族の同意を得て同席し、退院後にはスムーズに受入れができるように準備している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師とホーム職員が連携して安心して納得のできる最後を迎えられるよう取り組んでいる。	入所中の関りから本人の理解に努め、本人を中心にした看取り介護を家族、医師と相談している。看護師の配置があり、看護師が主となり看取り介護の体制を作り、家族も介護職員も安心して支援が行えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応マニュアルを整備している。また看護職員が24時間配置となっているため対応できる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・消火器の使い方などの確認は定期的に行っている。自然災害時等は自治会・消防団・近隣の大規模施設など協力関係もできている。またセコムによるホームセキュリティも設置している。	かかりつけ医療機関との日頃の連携により、実際に停電があった時に、地域連携室のスタッフの訪問と必要な支援の確認があった。地域の関係各所との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを大切にケアができるよう声掛けの仕方・声の大きさ・場面を見極め対応が出来る様に心がけている。	利用者の安全や心地よさを優先に、自尊心を傷つけない配慮がある。人それぞれの個性を踏まえた対応の指導や、職員同士でフォロー体制があり、理念を具現化した、和気藹々とした連携プレーで利用者の生活を支えている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけることはせず、選択肢を与え自身で決められるよう支援している。また、テレビ・新聞など好みのものがみられるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで行動ができるよう努めている。また、場面によっては慌てさせずやり遂げられる様に寄り添うよう心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生のもが苦手な方にはそうでないものを、個々の好みに合わせ提供している。引き続き外出が叶わないため食には特に気を配っている。	近所から旬の野菜や魚の差し入れがあり、利用者のリクエストや季節感を感じられる献立を手作りで調理している。食形態は嚥下機能に応じ、ゼリー状の形態にも対応している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個々に合わせ、また状態に合わせて食べやすい形・大きさにして提供する。また、食事量が少ない方はエンシュアで補うが、プリンにして摂取しやすくし提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う。出来ない方には介助し、出来る方にも付き添い口腔内の清潔に努めている。また歯科医師・歯科衛生士などからの指導もしてもらっている。	毎食後、必要に応じた支援により口腔ケアを実施している。随時、歯科医師の訪問診療による口腔ケアの指示や助言を得ている。夜間は義歯を外して衛生管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを掴み時間ごとにトイレの声かけを行っている。またトイレでの排泄が少々困難な場合でも介助しトイレで排泄が出来るよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の取り決めはあるが本人の状態や理解に合わせ無理な入浴は避けるようにしている。また、汚染があった場合等はその都度清潔に出来るよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息がとれるようにしているが個々の体調に合わせて配慮している。利用者様の希望で眠剤を服用される方もいる。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員で行い薬の作用・副作用等他の職員に説明し、理解してもらい、症状の変化の確認に努めている。	処方薬は、薬局で時間帯別の色分けと分包がされ、誤薬防止の工夫がある。内容の変更時は、情報共有し注意を促している。薬剤情報や療養管理指導文書は、個人ファイルに綴り、いつでも確認できる状態にある。服薬後は口腔内の確認をしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうな作業を見つけ利用者様とスタッフが一緒にし、出来る喜びを見つけ、役割をを果たしてもらえよう支援している。	入所後の状態の変化など、その時の状態に合わせてやれることを、無理なく行えるように支援している。一人が歌を歌い出すとそばにいる利用者も一緒に口ずさみ和やかな場となる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は戸外へ出かけることはほとんど無く、近隣の散歩のみとなっている。ほとんどの方が施設内のみの活動となった。	敷地内やホーム周辺の散歩に外出するが、以前のような外出機会は減っている。感染症等の状況に応じ、外出の機会を作っていきたいと考えている。親族の見舞いなど、外出や面会は状況に即した柔軟な対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さま本人が金銭を所持している方はいないが、所持していないことを不安に思う方もおられないため現在はしていないが、今後希望があれば対応する。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月等季節感を味わえるよう工夫している。また、毎日快適な暮らしが出来るよう室内の温度や湿度にも気を配っている。現在は換気をしつつの温度管理となっているため大変だが混乱を招かぬよう努めている	居室に置く家具のうちのひとつは、必ず馴染みある物を持参し、落ち着いて過ごせる居室作りを促している。利用者のちぎり絵や絵手紙の作品が飾られている。広いリビングは陽がよく入り、好きな場所で日光浴をしてくつろぐことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビング・食堂・畳スペースがつながっており、広い空間で思い思いの場所で過ごしている。また、自身の居室で好きなことをしている方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は入所前に使用していた物を持ってきていただいている。本人が大切にしている物のある空間づくりに心がけている。以前は仏壇を持ち込み毎日手を合わせている方もみえた。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体能力に応じ出来る事が出来なくならないような環境づくり、安全に生活できるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102988		
法人名	有限会社アヴェニール		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	岐阜県岐阜市河渡5丁目60番地		
自己評価作成日	令和6年1月7日	評価結果市町村受理日	令和6年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102988-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

24時間体制で看護職員を配置し、訪問看護ステーションとの連携もある。中心静脈栄養・胃瘻・インスリン注射等医療と切り離すことの出来ない利用者様の受け入れをし、ご家族の意向・ご本人の希望等に寄り添い当ホームで出来る限りのケアをする。また看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解し、地域住民の方との交流の場に出掛ける等、この地で暮らし続けることを支援できるよう努めているが今年も昨年から引き続き地域住民との交流は出来ていない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣の社福法人の行事に参加し交流を深めたり、散歩や買い物に出掛ける利用者様もいたため地域住民と挨拶を交わしたり、自治会行事への参加もしていたが、今年も昨年から引き続き出来なかった。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行後は運営推進会議を再開している。以前のように様々な取り組みについて報告し意見をいただき反映させている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前から相談事がある時には直接出向き市町村担当者と顔を合わせ相談にも乗ってもらっている。現在は電話やメールでのやり取りが多くなった。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で日々ケアに取り組んでいる。しかし必要な場合は家族と話し合い適切な手続きを経て身体拘束を行う。その後は定期的にあセスメントを行い解除に向けた話し合いをしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に「高齢者虐待防止法」の勉強会を開催し職員全員が理解を深め、注意しあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部より講師を招き「権利擁護・成年後見制度」の勉強会を開催し職員全員が参加して理解し活用できるようにしていたが今年も開催できなかった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分に説明し理解していた。また法改正等で変更があった場合も都度説明し理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし良い信頼関係が築けるよう努めている。意見・要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回開催されるカンファレンスには必ず代表者・管理者が参加し職員からの意見を聞く機会を設けている。しかし把握しきれない可能性もあるため、年に一度の個人面談で収集できるよう努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日ホームに居て個々の職員の勤務状況を把握している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し希望の研修を受けられるよう努めているが、外部の研修への参加は実現出来ていない。そのためホーム内で勉強会を開催しケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前から代表者は他のホームの管理者等と交流を深めてきたが、コロナ期間も電話やメールでの交流が行われていた。情報のやり取りなど現在も良い関係が続いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側との意識を持たずお互いが共同しながら和やかで楽しく生活が出来るよう心掛けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情や行動からも意思を読み取れるよう努め、より理解を深める為に家族からも情報を得るよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様主体の暮らしに反映したケアプランを立てている。プランの見直しは期間や身体状況に応じて作成している。また、毎月のカンファレンスで意見交換をしプランに反映出来る様に努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には一日の様子を記入し特記事項はその日のうちにスタッフに伝わるよう連絡ノートに記入し、必ず目を通し情報を共有している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様たちが安心して暮らし続けられるよう自治会・民生委員などと情報交換してきたが、今年も出来なかった。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前よりのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。通院が不可能になった場合でも近医に訪問診療をいただける。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法など情報を提供している。またホーム職員が定期的に見舞うようにし家族ともに連絡を取り合っている。協力医療機関での入院が多いため、病院職員との良い関係は出来ている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師とホーム職員が連携して安心して納得のできる最後を迎えられるよう取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応マニュアルを整備している。また看護職員が24時間配置となっているため対応できる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・消火器の使い方などの確認は定期的に行っている。自然災害時等は自治会・消防団・近隣の大規模施設など協力関係もできている。またセコムによるホームセキュリティも設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを大切にシケアができるよう声掛けの仕方・声の大きさ・場面を見極め対応が出来る様に心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけることはせず、選択肢を与え自身で決められるよう支援している。また、テレビ・新聞など好みのものがみられるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで行動ができるよう努めている。また、場面によっては慌てさせずやり遂げられる様に寄り添うよう心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生のが苦手な方にはそうでないものを、個々の好みに合わせ提供している。引き続き外出が叶わないため食には特に気を配っている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個々に合わせ、また状態に合わせて食べやすい形・大きさにして提供する。また、食事量が少ない方はエンシュアで補うが、プリンにして摂取しやすくし提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う。出来ない方には介助し、出来る方にも付き添い口腔内の清潔に努めている。また歯科医師・歯科衛生士などからの指導もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを掴み時間ごとにトイレの声かけを行っている。またトイレでの排泄が少々困難な場合でも介助しトイレで排泄が出来るよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の取り決めはあるが本人の状態や理解に合わせ無理な入浴は避けるようにしている。また、汚染があった場合等は都度清潔に出来るよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息がとれるようにしているが個々の体調に合わせて配慮している。利用者様の希望で眠剤を服用される方もいる。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員で行い薬の作用・副作用等他の職員に説明し、理解してもらい、症状の変化の確認に努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうな作業を見つけ利用者様とスタッフが一緒にし、出来る喜びを見つけ、役割をを果たしてもらえよう支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はは戸外へ出かけることはほとんど無く、近隣の散歩のみとなっている。ほとんどの方が施設内のみの活動となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さま本人が金銭を所持している方はいないが、所持していないことを不安に思う方もおられないため現在はしていないが、今後希望があれば対応する。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月等季節感を味わえるよう工夫している。また、毎日快適な暮らしが出来るよう室内の温度や湿度にも気を配っている。現在は換気をしつつの温度管理となっているため大変だが混乱を招かぬよう努めている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビング・食堂・畳スペースがつながっており、広い空間で思い思いの場所で過ごしている。また、自身の居室で好きなことをしている方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は入所前に使用していた物を持ってきていただいている。本人が大切にしている物のある空間づくりに心がけている。以前は仏壇を持ち込み毎日手を合わせている方もみえた。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体能力に応じ出来る事が出来なくなるような環境づくり、安全に生活できるよう支援している。		